

# 久留米市地場企業景況調査レポート(平成22年1月～3月期調査分)

## <調査目的>

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

## <調査対象>

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

## <調査要領>

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

## <DI値とは>

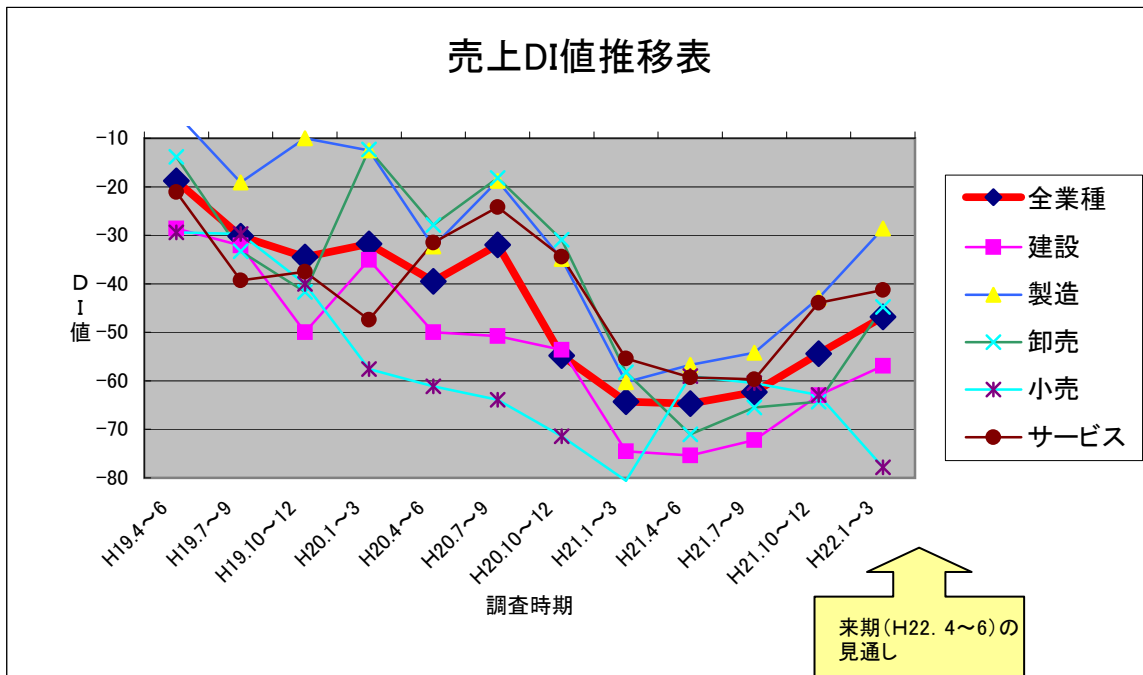
DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

## <平成22年1月～3月期調査分回収結果>

業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	278	46.3%
建設業	120	51	42.5%
製造業	120	64	53.3%
卸売業	120	60	50.0%
小売業	120	39	32.5%
サービス業	120	64	53.3%

## 売上DI値推移表

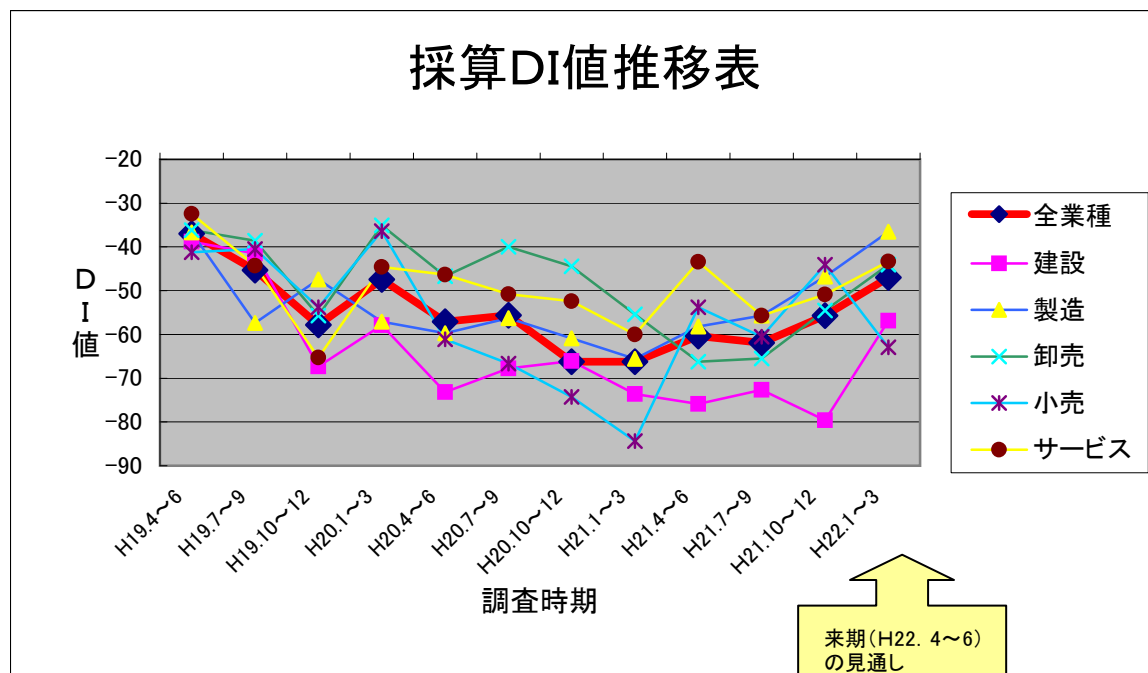


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「売上面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は43社(前期比7社増)、「減少した」と回答した企業は169社(前期比10社減)、「横ばいである」と答えた企業は57社(前期比9社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は三期連続で縮小して▲46. 8となり、前期比で7. 6P好転した。

業種別に見ると、建設業▲56. 9(前期比6. 1P好転)、製造業▲28. 6(前期比14. 3P好転)、卸売業▲44. 8(前期比19. 5P好転)、小売業▲77. 8(前期比14. 9P悪化)、サービス業▲41. 3(前期比2. 6P好転)となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲39. 9と6. 9P好転する見込み。

## 採算DI値推移表

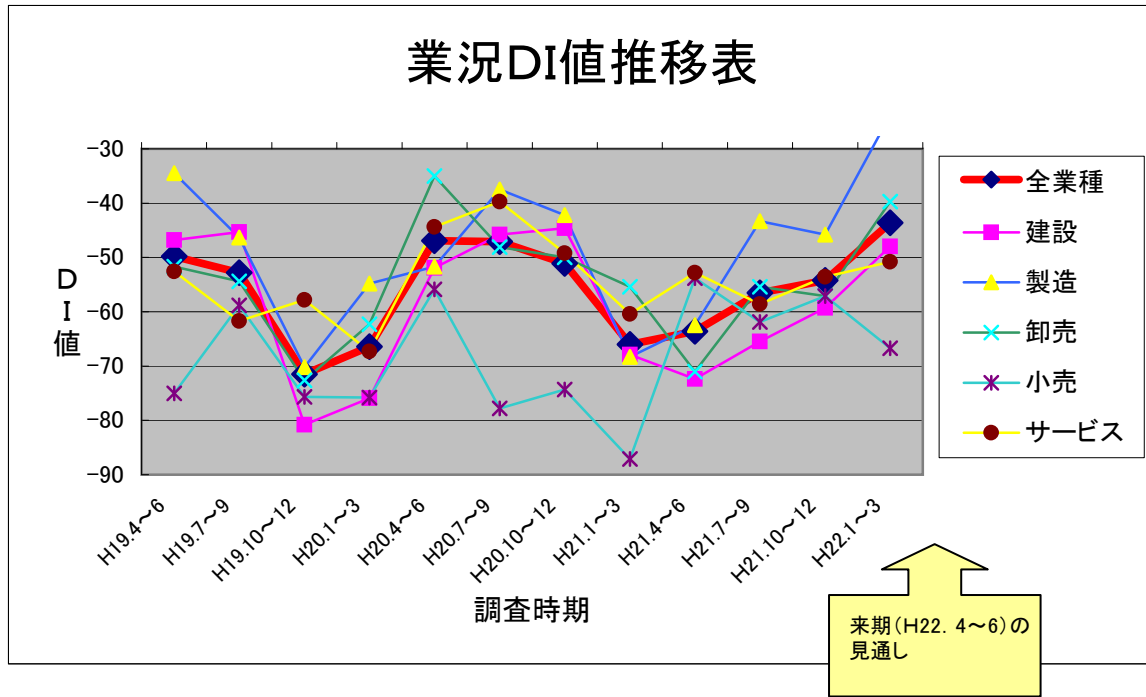


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「採算面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は36社(前期比11社増)、「悪化した」と回答した企業は162社(前期比9社減)、「横ばいである」と答えた企業は70社(前期比4. 社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は三期ぶりに縮小して▲47となり、前期比で8. 7P好転した。

業種別に見ると、建設業▲56. 9(前期比22. 7P好転)、製造業▲36. 5(前期比10. 3P好転)、卸売業▲44. 1(前期比10. 4P好転)、小売業▲62. 9(前期比18. 8P悪化)、サービス業▲43. 3(前期比7. 6P好転)となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲45. 1と、1. 9P好転する見込み。

## 業況DI値推移表

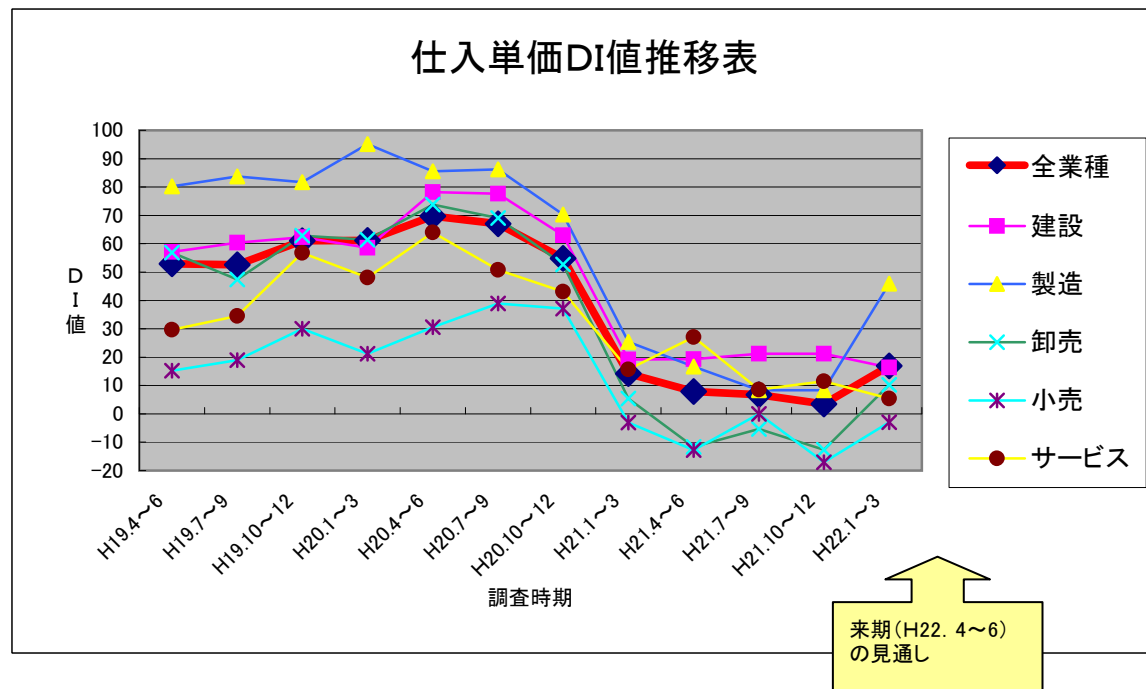


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は30社(前期比3社増)、「悪化した」と回答した企業は146社(前期比22社減)、「横ばいである」と答えた企業は90社(前期比25社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は四期連続で縮小して▲43. 6となり、前期比で10. 6P好転した。

業種別に見ると、建設業▲48(前期比11. 3P好転)、製造業▲23. 8(前期比22P好転)、卸売業▲39. 7(前期比17. 4P好転)、小売業▲66. 7(前期比9. 6P悪化)、サービス業▲50. 8(前期比2. 8P好転)となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲40. 9と、2. 7P好転する見込み。

## 仕入単価DI値推移表

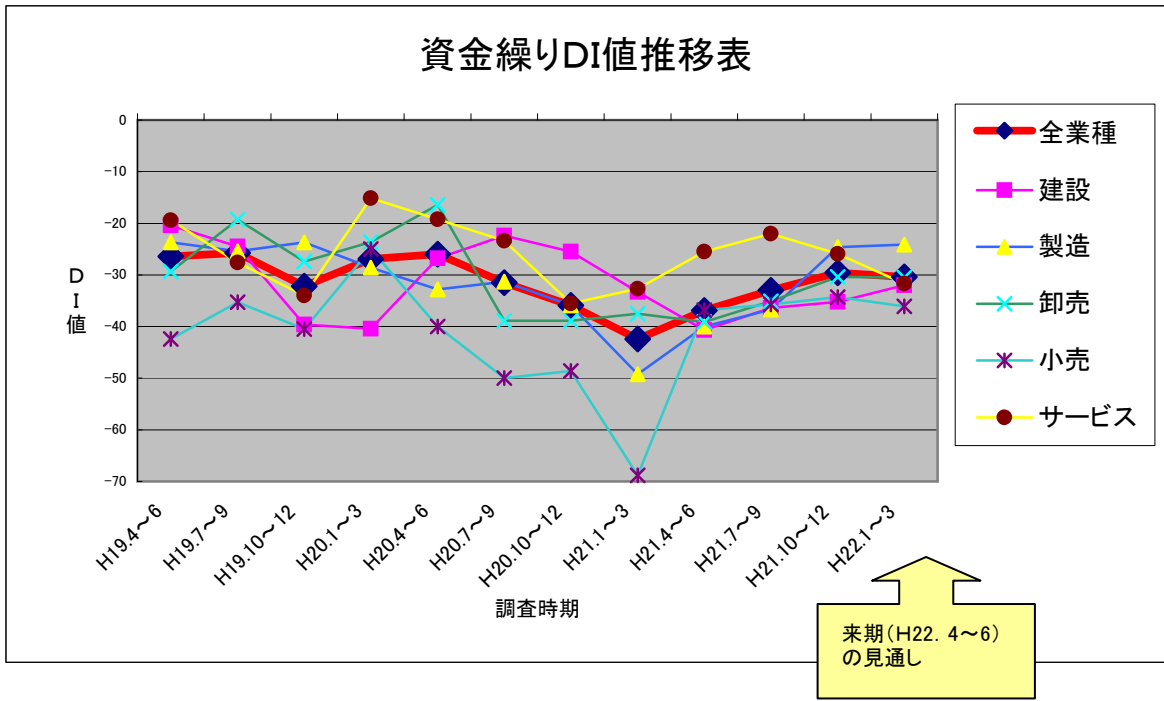


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は77社(前期比21社増)、「低下した」と回答した企業は33社(前期比14減)、「横ばいである」と答えた企業は150社(前期比1社減)であった。DI値を見ると、16. 9となり、前期比で13. 4P悪化した。

業種別に見ると、建設業16. 3(前期比4. 9好転)、製造業45. 9(前期比37. 6悪化)、卸売業10. 2(前期比22. 9P悪化)、小売業▲2. 9(前期比14. 2P悪化)、サービス業5. 4(前期比6. 1P好転)となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは全業種DI値は16. 3と、0. 6P好転する見込み。

### 資金繰りDI値推移表

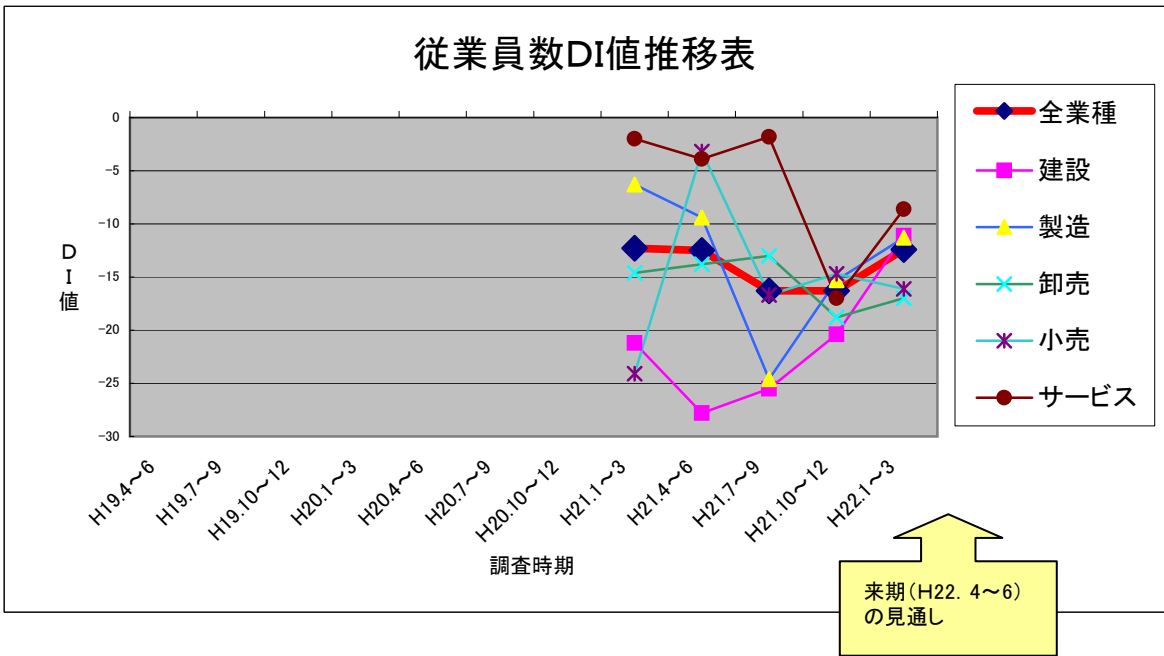


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は14社(前期比7社減)、「悪化した」と回答した企業は94社(前期比4社減)、「横ばいである」と答えた企業は155社(前期比14社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期連続で縮小して▲30.4となり、前期比で0.8P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲32(前期比3.2P好転)、製造業▲24.1(前期比0.5P好転)、卸売業▲30.5(前期比0.1P悪化)、小売業▲36.1(前期比1.8P悪化)、サービス業▲31.7(前期比5.8P悪化)となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは全業種DI値は▲31.6と、1.2P悪化する見込み。

### 従業員数DI値推移表

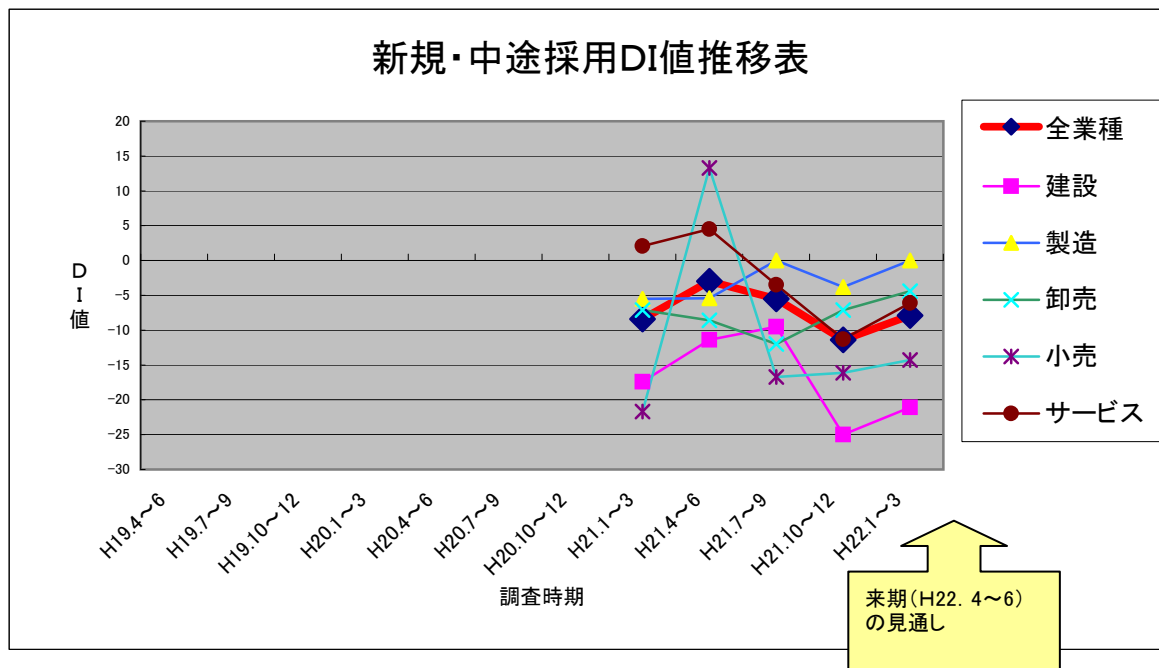


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は23社、「減少した」と回答した企業は54社、「横ばいである」と答えた企業は172社であった。DI値は▲12.4となった。

業種別に見ると、建設業▲11.1、製造業▲11.3、卸売業▲17、小売業▲16.1、サービス業▲8.6となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲9.8となる見込み。業種別に見ると、建設業▲15.6、製造業▲9.7、卸売業▲11.3、小売業▲12.9、サービス業▲1.9となる見込み。

## 新規・中途採用DI値推移表

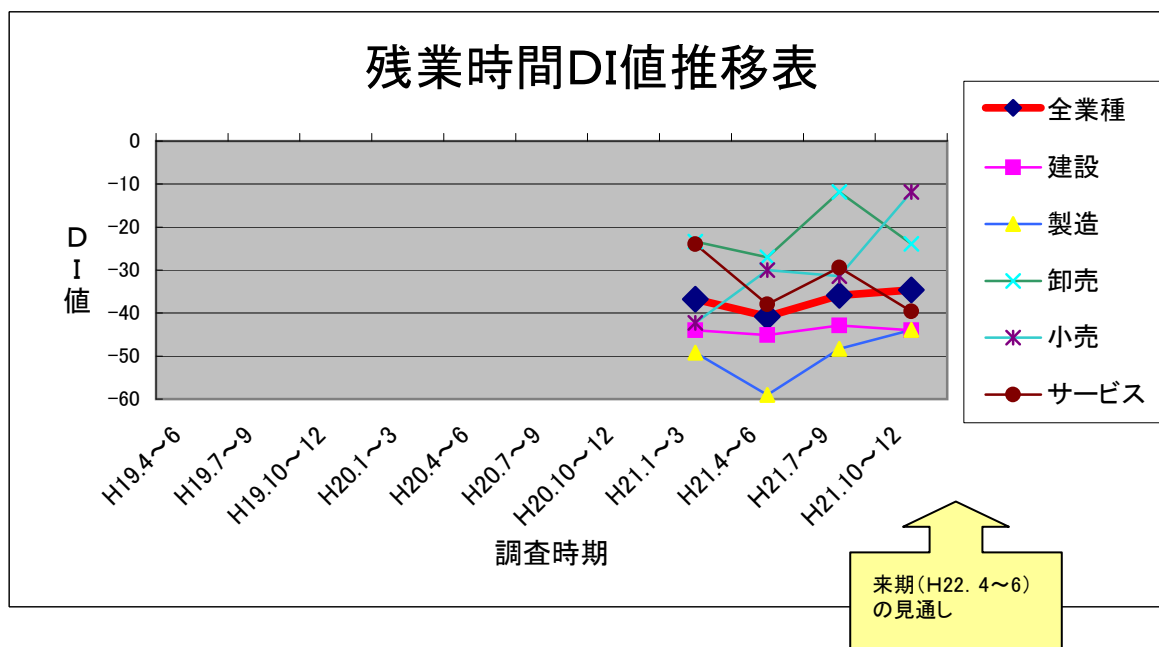


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は29社、「減少した」と回答した企業は46社、「横ばいである」と答えた企業は140社であった。DI値は、▲7.9となった。

業種別に見ると、建設業▲21.1、製造業0、卸売業▲4.4、小売業▲14.3、サービス業▲6.1となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲9.8となる見込み。業種別に見ると、建設業▲23.1、製造業▲3.6、卸売業▲6.5、小売業▲17.9、サービス業▲4.3となる見込み。

## 残業時間DI値推移表

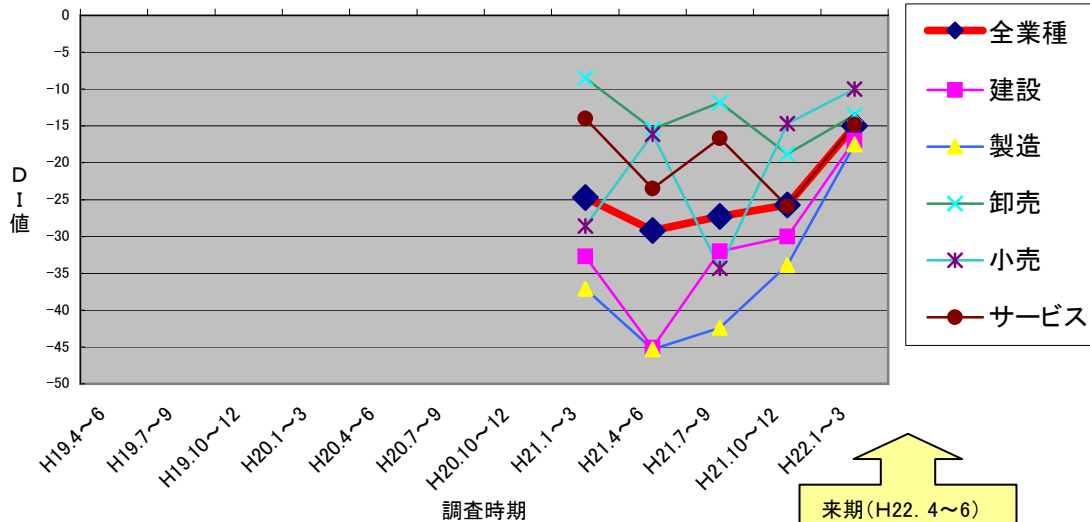


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は23社、「減少した」と回答した企業は77社、「横ばいである」と答えた企業は138社であった。DI値は▲22.7となった。

業種別に見ると、建設業▲28.3、製造業▲23、卸売業▲14、小売業▲24.1、サービス業▲25となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲20.7となる見込み。業種別に見ると、建設業▲29.8、製造業▲16.4、卸売業▲10、小売業▲26.7、サービス業▲24.5となる見込み。

## 労働時間・日数DI値推移表

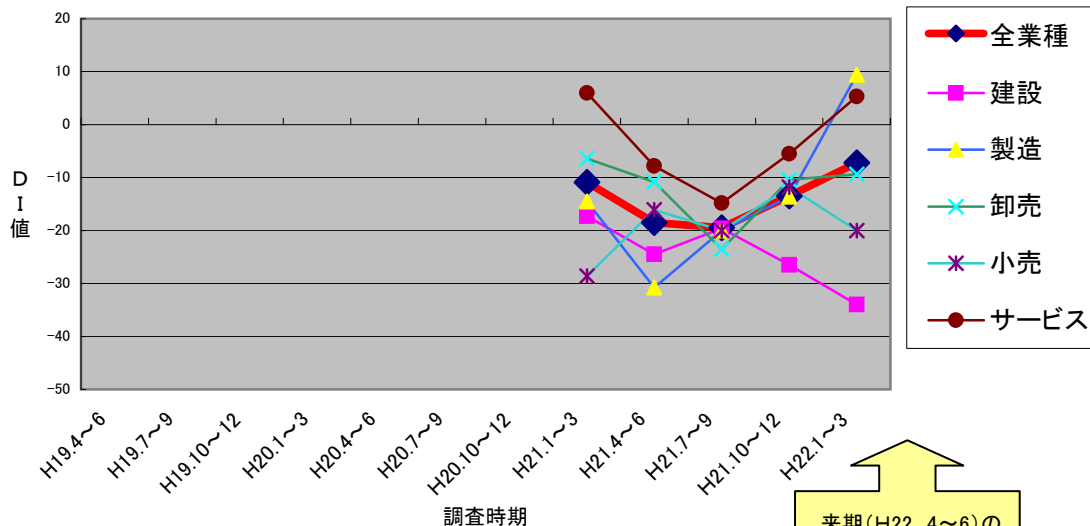


今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は17社、「減少した」と回答した企業は54社、「横ばいである」と答えた企業は175社であった。DI値は▲15となった。

業種別に見ると、建設業▲17、製造業▲17.5、卸売業▲13.5、小売業▲10、サービス業▲14.8となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲13.2となる見込み。業種別に見ると、建設業▲21.3、製造業▲11.1、卸売業▲7.7、小売業▲16.7、サービス業▲11.8となる見込み。

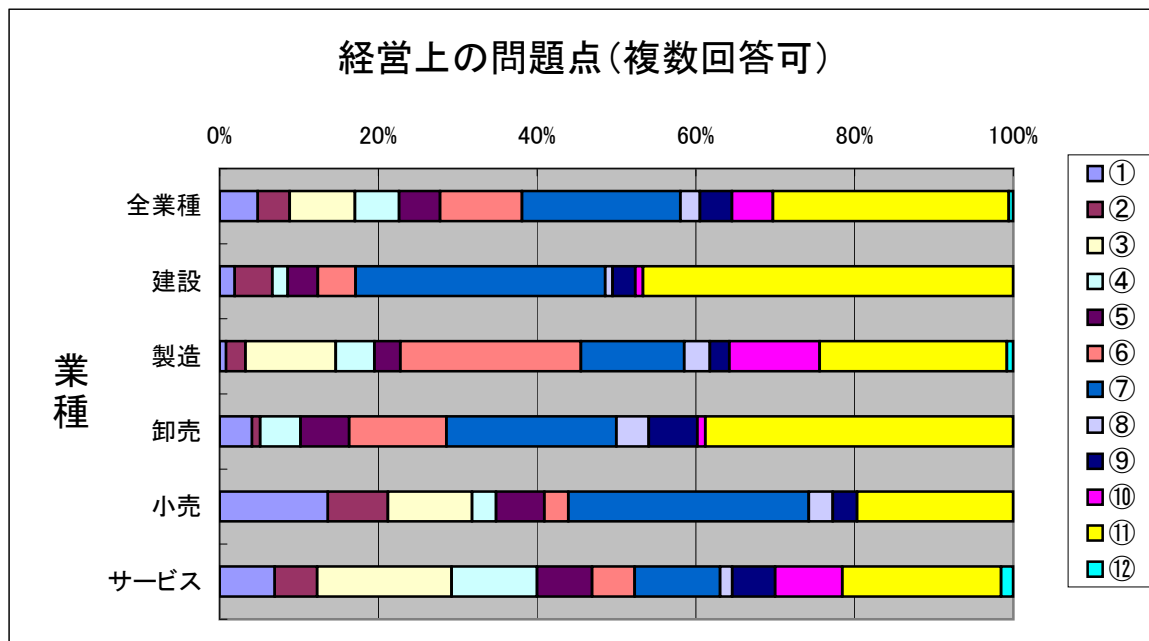
## 賃金DI値推移表



今期(H22. 1~3)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は37社、「減少した」と回答した企業は55社、「横ばいである」と答えた企業は159社であった。DI値は▲7.2となった。

業種別のDI値では、建設業▲34、製造業▲9.4、卸売業▲9.4、小売業▲20、サービス業▲5.3となった。

来期(H22. 4~6)の見通しでは、全業種DI値は▲4.4となる見込み。業種別に見ると、建設業▲25.5、製造業▲10.9、卸売業▲3.8、小売業▲20、サービス業▲3.7となる見込み。



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他  
 今期(H22. 1~3)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(29.7%)」「販売価格の低下・上昇難(19.9%)」を指摘する声が多く寄せられている。  
 特に、「需要の停滞」は建設業(47.7%)、製造業(29.6%)、卸売業(39.8%)、小売業(20.7%)サービス業(20.0%)と全業種で意見が集中した。

#### <事業所から寄せられた主なコメント>

##### 【建設業】

- ・「前年に比べて専門職の工事量が減少し、先行きが不透明。今後、県の動向を重視したい」
- ・「従業員数をまかなうだけの工事が受注出来ない」
- ・「請負単価の低下及び取引条件の悪化により、経営が不安定になっている」

##### 【製造業】

- ・「公共事業の圧縮、一般建築、土木建築の需要低下で苦しい状況。」
- ・「需要の低下と最低賃金及び社会保険料の増加で経営が悪化している。」
- ・「従来からの得意先(個人商店)の減少、スーパー量販店からの値下げの要求があるが、原料は不足気味で仕入単価は上昇し採算が合わない。」

##### 【卸売業】

- ・「売上拡大をしたいが、倒産も多くリスクを伴う為難しい」
- ・「大手販売先の事業所縮小や統合などで、販売品目が減少している。経済環境が急速に変化していることに戸惑いを感じる」
- ・「有能な人材の不足」

##### 【小売業】

- ・「集客をどのようにやっていくかが今後の課題」
- ・「大型店の販売単価が、当店仕入単価以下という最悪の状況による売上の激減。不景気がさらに深刻になっている」
- ・「低価格競争で消費者がデフレ慣れしてしまっている。高額な商品や定価ではなかなか売れないため、常時セールをしなくてはならず、利益が出にくい状況」

##### 【サービス業】

- ・「借入をしたいが、返済できるか不安である」
- ・「天候不順の影響で、売上げが減少した。また家賃の支払等が経営を圧迫している。」
- ・「即戦力となる人材の確保と教育が今後の課題」